

「私の第一声⑳」

【行事の思い出② 貝塚市の合唱コンクールの歴史】

貝塚市の中学校では、学年音楽会や文化祭の中で合唱をするクラスはありましたが、現在のような合唱コンクール（各クラス単位で指揮や伴奏も生徒が行い、学年別課題曲とクラスで決める自由選択曲の2曲を歌って順位を競う）が始まったのは、昭和56年、貝塚一中でのことでした。前年に初任者として赴任した音楽の教員、山口美紀先生（その後、三中でもご指導いただきました）が、生徒みんなで盛り上がる行事をつくろうと、さまざまな工夫をして、実施したそうです。当時の一中は、各学年が9クラスある巨大な学校で、学年予選をし、各学年3位までに入った9つのクラスで本選をしたそうです。山口先生は昭和59年に転任され、赴任先の二中でも昭和60年から合唱コンクールが始まりました。この頃、二中も各学年9クラスありました。この行事は、生徒が楽しく取り組める上に、大きく成長すると評判になり、数年後には、三・四中でも始まりました（五中は、創立前です）。

始まった当初は、生徒が恥ずかしがって声を出さないのが、大きな声が出ていけばよい合唱だと思われるようなレベルだったそうです。自由選択曲は、流行の歌謡曲の編曲したものが人気で、合唱としての素晴らしさが味わえる演奏がなかなか行えなかったそうです。指揮者も一定のリズムで指揮棒を振ることしかできなくて、各パートの歌い出しで合図を送るとそれだけで素晴らしいものに見えたそうです。

しかし、生徒たちは、本当によいものには反応します。きちんとした合唱曲を美しく歌うクラスが現れると、その素晴らしさに感動し、次の年には、その曲を後輩が取り合い、もっと美しい曲を歌いたいと名曲を探すようになるのです。声の大きさからハーモニーの美しさへ、ハーモニーが整うと、楽譜通りの表現から、歌詞や曲想を理解し、解釈を表現することへと、演奏がレベルアップしていったそうです。自分の学年で勝つだけでなく前年の先輩の演奏を超えたいと、生徒自身がレベルを上げていくというのです。指揮も伴奏も、技術が高いことより、合唱との一体感が大切にされるようになりました。

市内の全小中学校の参加する連合音楽会があり、各中学校の演奏の

レベルが上がってきたころ、各学校で最優秀となったクラスが、出場するようになりました。他の中学校の演奏を聴くことができるので、さらにレベルが上がったそうです。

残念ながら、連合音楽会は令和元年度を最後になりました。

【行事の思い出② 私の二中での思い出】

私が教員になった平成6年には、二中は各学年5クラスで、予選はなく全クラスが本番で演奏していました。上級生は合唱曲で勝負する時代になっており、課題曲も、1年「翼をください」2年「モルダウ」3年「大地讃頌」だったことを覚えています。私は合唱コンクールが大好きでしたが、今でも忘れられない、2つの思い出があります。

1つ目は、平成8年、1年生のクラスが最優秀賞となった時のことです。これまでにないことだったので揉め事になるのではと心配されましたが、その時の破れた3年生の優秀賞のクラスが、1年生の演奏を「とてもいい演奏だった」と称賛したのです。勝敗でなく演奏の内容を評するその爽やかな3年生の態度に、1年生の生徒は感動・尊敬し、先輩のようになりたいと口々に言っていたことを覚えています。

2つ目は、平成13年、3年生のあるクラスが、合唱コンクール前に担任の先生が入院され、その先生のためにも絶対に最優秀をとりたいと、休みの日にも公園にクラス全員が集まって練習するなどしていたそうです。そのクラスの自由選択曲「青葉の歌」の出だしの「ラー！」という声の音圧に押されて、観客が一斉にのけぞるほどでした。

昨年末、朝のテレビ番組で、高校生の合唱コンクールをコミカルに描いたドラマ「クレッシェンドで進め！」が放映されていました。生徒1人ひとりの状況やモチベーションが違う中、クラスでのめごとなどを1つ1つ解決して本番を迎えていく様子は、その頃の二中でも、今の三中でも、見られた光景でした。コロナ禍で行事をこれまで通りすることは本当に難しいですが、生徒たちが、仲間と大切な青春の1ページを共有できるよう、これからも工夫し、全力で守っていきます

【不定期コラムNo.42】へつづく

第三中学校ホームページ

では、子どもたちの様子やお知らせなど情報発信しています。ぜひご覧ください。これまでの不定期コラムも「校長室より」のコーナーでご覧いただけます。

<http://www.kaizuka.ed.jp/dai3-jh/>

貝塚第三中学校HP

HP

貝塚第三中学校HP

HP

貝塚第三中学校HP

HP

貝塚第三中学校HP

HP

貝塚第三中学校HP

HP